

令和6年度マイスター・ハイスクール事業 成果発表会 講評シート

学校名(北海道厚岸翔洋高等学校)

1. 取組についての評価

- ・北海道厚岸町の基幹産業である水産業の地域課題と将来の地域産業としての持続・発展のために厚岸翔洋高校が一体となって取り組んでいることを評価する。
- ・「水産資源の持続化」「漁家経営の持続化」「地域産業の持続化」をテーマとして地域課題の設定に関しても適切なテーマ設定がなされている。
- ・そのそれぞれのテーマに関して、漁業という地域産業の現場に密着した取り組みが行われている。アンケート結果からも、それらの取り組みが漁業者の役に立ち、評価を受けることによって生徒のモチベーションも上がり、やりがいを持って「自分ごと」として取り組んでいった姿が見てとれた。生徒の地域課題の発見と課題設定、そして、「将来地域のために貢献したい」という回答に結び付けられたことは、この事業の目的である地域産業人材育成に繋がっていくと評価できる。
- ・厚岸翔洋高校の地域課題解決に向けた取り組みが、地域を巻き込んだ大きな活動に成長しつつある点を評価する。
(海ログの情報開示は、漁家からの要望につなり、厚岸カキの産卵日予測という結果を出し、水中ドローンの活用は、ホタテ漁場の見える化につながり、資源量マップの作成という結果を出し、未利用魚のアメマスを利用した「あめかま」の商品開発が、ふるさと納税の返礼品に選ばれるという結果を出した。)
- ・各種大会等で取り組み成果を発表する機会を設け、他者評価の影響で生徒たちの自己肯定感が高まったというアンケート結果が出ている。他者からの賞賛は人がモチベーションを上げる大きな要因になる。成果発表というカタチで生徒のやる気を引き出す重要な取り組みに位置付けている点にも好感が持てる。

2. 今後の課題と考えられること

- ・本拠点は「生産技術」→「加工」→「ブランディング」→「マーケティング」→「販売」まで一気通貫で取り組んでおり、ふるさと納税の返礼品開発など地域と密着した取り組みも行われている。事業成果発表などの活動も活発に行われているが、今後は厚岸町、北海道庁など自治体との連携も、より推進し全国に活動を広められるアウトリーチ活動を期待する。
- ・何に取り組み結果を出した点はわかりやすく説明がされている。一方で、町は、学校の先生たちは、また産業界は、どのように活動し、どんな課題が生じ、どのように対応して現時点にたどり着いたのか。取り組み内容だけでなく、取り組みの工夫(例えば、取り組み体制、役割分担など)についても厚岸翔洋高校の独自性がわかれればなお良かったと思う。
- ・素晴らしい取り組みであるので、ぜひ生徒の主体性を引き出す「エコシステム」(無理のない仕組み)を確立させることを期待する。